



W-BRIDGE

‘09 年度活動報告

09

W=BRIDGE

Waseda-Bridgestone Initiative for Development
of Global Environment



Message

地球環境保全のための「架け橋」を目指して

早稲田大学とブリヂストンが連携して進める「W-BRIDGE」は、環境問題という人類共通の課題に対し、産学連携に加え、環境 NGO や市民団体といった一般の生活者の方々にも参画いただき、三者一体で研究・活動を行える枠組みを提供するプロジェクトです。企業と大学の連携に、地域の生活者との連携をプラスして、二つの架け橋、つまりダブルブリッジに基づいた実践的な研究・活動を支援していくことを目的としています。

2008 年 7 月のスタート以来、のべ 22 件のプロジェクトを支援してきました。研究者と市民そして学生の間に架け橋をわたして、ともに地球環境を守るための研究・活動をすすめています。世界的な業績を上げた研究者や著名な NPO 活動者から、それぞれの地域で生活と環境を守っているみなさん、未来への希望に満ちた学生まで一緒に手を携えて行動をしています。ちょっと照れくさいですが、地球とみんなの「しあわせ」を目指して。

W-BRIDGE (Waseda-Bridgestone Initiative for Development of Global Environment) は早稲田大学環境総合研究センター内に設置された産学連携プロジェクトです。

株式会社ブリヂストンが定めた 4 つの領域

1. 地球温暖化対策と生物多様性保全のバランスを考える
2. 人々の生活と環境保全活動のバランスを考える
3. 次世代からの視点で目標を定め、効果的で効率的な環境改善手法を考える
4. 環境に関する情報を世界へ効果的に発信し、コミュニケーションする手法を考える

の中から 1 つを選んで、早稲田大学および早稲田大学の提携校等に所属する研究者と民間団体などの連名で応募いただき、助成審査委員会の審査を経た案件に対して、早稲田大学環境総合研究センターから研究・活動を委託しております。

また、研究・活動を支え、情報を発信する活動も併せて行っています。2009 年 11 月 1 日現在、のべ 22 件のプロジェクトが採択されており（うち 4 件はすでに目標を達成して終了）対象地域もインドネシアから早稲田の町内会まで、研究代表者も早稲田大学、慶應義塾大学、茨城大学、山梨大学、国際研究機関まで、民間団体も海外の NPO から、商工会、地域団体、ジャーナリスト団体など多様な広がりを見せています。

本レポートの内容は W-BRIDGE プロジェクトの第一期の活動の概要を表したものです。詳細は、www.w-bridge.jp をご覧いただくか、W-BRIDGE 事務局（裏表紙に記載）までお問い合わせください。



ご挨拶

早稲田大学は、環境分野においては、理工学系と人文社会科学系が協働して問題に取り組むことが重要であるとの認識から、学問領域統合型のアプローチを旨とする環境総合研究センターを設置して活発な研究展開を行うとともに、大学院環境・エネルギー研究科を設置して、時代の課題に応えた大学院教育を展開して参りました。

株式会社ブリヂストンでは、企業理念におけるミッションの一つとして「地球環境の保全に貢献」を掲げ、かねてから経営の最重要課題の一つとして「環境経営活動」を積極的に実践して参りました。具体的には、生産事業所の環境負荷軽減、環境対応商品の開発・販売やリトレッド事業の展開等の本業での環境活動に留まらず、社会貢献的な活動を含め、網羅的で多様性のある「環境経営活動」をグローバルに展開して参りました。

そして双方は、日々深刻化する地球環境問題解決の道筋を明らかにするという、企業および大学の社会的使命を果たしていくためには、従来の企業と大学の連携の枠を超えた、人々の生活により近づいた取り組みが必要だと考え、当プロジェクトをスタートさせました。



写真上：大隈庭園内田んぼ「わせでん」

地球環境問題は、人類、ひいては全ての生物に関わる問題であり、その解決のための研究は、地域に生活する人々を巻き込んだ実践的なものでなければなりません。本プロジェクト設立の意図は、生活者としての一般の人々にも参加していただけるような新しい枠組みを提供するということです。

W-BRIDGE は、地域で実生活に根ざした活動をされている人々やNPOやNGOと産と学とが、ともに課題解決に取り組んでいく、そういう三者連携の新しい枠組を提供することにより、地球規模の問題解決や持続型社会の実現に貢献していきたいと考えます。また、得られた成果は広く世の中に発信し、多くの方々に活用していただけるようにしていきたいと考えます。

皆様におかれましては、当プロジェクトの趣旨をご理解いただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代 表 堀口健治

代表代行 堀尾正毅

副 代 表 平 田 靖



写真上：インドネシア・ロンボク島「アブラギリ植林地」